

日本語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語学概論	日本語の歴史	2	大木一夫	前期 月曜日 5 講時	国語学概論
日本語学概論	日本語学入門	2	菊地 恵太	前期 火曜日 2 講時	国語学概論
日本語学概論	ことばのバリエーション	2	甲田直美	後期 火曜日 3 講時	国語学概論
日本語学概論	方言研究	2	小林隆	後期 月曜日 5 講時	国語学概論
日本語学基礎講読	文文法と談話の接点	2	甲田直美	前期 火曜日 3 講時	国語学基礎講読
日本語学基礎講読	古典語・方言講読	2	小林隆	後期 月曜日 2 講時	国語学基礎講読
日本語学各論	日本語文法の歴史的研究	2	青木博史	後期集中 その他 連講	国語学各論
日本語学各論	日本語文法研究	2	大木一夫	前期 木曜日 2 講時	国語学各論
日本語学各論	文章・談話の構造論	2	甲田直美	前期 月曜日 3 講時	国語学各論
日本語学各論	方言学的日本語史研究	2	小林隆	後期 火曜日 2 講時	国語学各論
日本語学各論	現代日本語の文法と文法研究の課題	2	前田 直子	前期集中 その他 連講	国語学各論
日本語学講読	言語変化研究	2	大木一夫	後期 木曜日 2 講時	国語学講読
日本語学講読	近世語研究	2	大木一夫	前期 月曜日 2 講時	国語学講読
日本語学演習	文章・談話の構造	2	甲田直美	後期 月曜日 2 講時	国語学演習
日本語学演習	方言調査法	2	小林隆	前期 火曜日 2 講時	国語学演習
日本語学演習	言語行動の諸相	2	津田 智史	前期 水曜日 2 講時	国語学演習

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：大木一夫

コード：LB31503 科目ナンバリング：LHM-LIN203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：日本語の歴史

2. Course Title (授業題目) : History of the Japanese language

3. 授業の目的と概要：言語は変化する。これは言語がもつ本質的な性質である。そして、その変化の結果、古代の日本語が現在の日本語になったのである。それでは、日本語はどのようにうつりかわってきたのか。古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要について把握する。また、同時に言語の歴史をとらえる方法の概要を把握する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will learn about the outline of Japanese language history. You will also learn about an overview of how to reveal the history of the language. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。
- (2) 言語の歴史をとらえる方法について、説明できるようになる。
- (3) 日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

- (1) be able to outline the history of Japanese language,
- (2) be able to explain important matters of Japanese language history,
- (3) be able to explain how to reveal the history of language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：言語は変化する
- 第2回：日本語の文字の誕生
- 第3回：上代特殊仮名遣
- 第4回：古代日本語の発音をさぐる
- 第5回：日本語の文章の確立と古代語の語彙
- 第6回：古典文法の世界
- 第7回：近代日本語の発音へ
- 第8回：近代日本語文法の性格
- 第9回：上方語から江戸語へ
- 第10回：日本語表記改革への道
- 第11回：日本語語彙の近代化
- 第12回：新しい書きことばの成立
- 第13回：言語政策と現代日本語表記
- 第14回：試験と解説
- 第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』（ひつじ書房）、他に必要に応じてコピーを配布する。

参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読み、十分理解して参加する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：菊地 恵太

コード：LB32205 科目ナンバリング：LHM-LIN203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：日本語学入門

2. Course Title (授業題目)：An introduction to Japanese linguistics

3. 授業の目的と概要：我々が当たり前のように使用している日本語がどのような特徴を持った言語であるか、また日本語を巡ってどのような現象が見られるのか、客観的に把握することを目的として、日本語の様々な側面について講義する。言語学・日本語学とはどのような学問かという点についても、理解を深められるようにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is a lecture on an outline of Japanese linguistics.

In this course, you will grasp various phenomena and features of Japanese language objectively, and you will be able to enhance understanding of linguistics.

5. 学習の到達目標：

1. 日本語を巡る様々な現象について、客観的に捉えられるようになる。

2. 言語学・日本語学に関する基礎的な知識を習得する。

3. 身近に使用されている日本語に問題意識を持ち、学術的観点から説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To understand various phenomena about Japanese language objectively.

2. To acquire basic knowledge of Japanese linguistics.

3. To become aware of questions about familiar Japanese language, and become able to explain them from an academic perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス/言語とは何か

2. 世界の言語と日本語

3. 音声学・音韻論 (1) 調音と音声記号

4. 音声学・音韻論 (2) 音韻とアクセント

5. 語彙論 (1) 意味と語彙体系

6. 語彙論 (2) 語構成

7. 文法と文法論

8. 文の単位と品詞

9. 文法範疇 (1) 格と態

10. 文法範疇 (2) テンス・アスペクト・モダリティ

11. 文字・表記 (1) 日本の文字体系

12. 文字・表記 (2) 漢字・異体字

13. 文字・表記 (3) 日本の文字施策

14. 日本語の文体と位相

15. 試験・解説

8. 成績評価方法：

小テスト (授業内容の復習) (20%)

授業態度 (コメントペーパー) (20%)

期末試験 (60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない (プリント配布)。参考文献は授業内で適宜示す。

10. 授業時間外学習：日本語を扱う授業であるので、普段から使っている言葉や文字に注意を払う癖をつけてほしい。ノート、メモ等を積極的に取り、毎回復習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：甲田直美

コード：LB42302 科目ナンバリング：LHM-LIN203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：ことばのバリエーション
2. Course Title (授業題目)：Variation in Japanese Language
3. 授業の目的と概要：言語の持つ、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、研究の実例と分析方法について講義する。抽象的所有物ではなく、実際の場面で使用された、具体的使用文脈における言語を扱う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces various topics in Japanese language variations such as regional dialect, diachronic change, speaker's regional or social background, and mode of discourse. Variety is a specific set of human speech patterns. Viewing language as a realization of language use, the focus of the course is on examining the interrelationship between language variety in sounds, words, grammatical features and people's language use in everyday life.
5. 学習の到達目標：
 - (1)我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。
 - (2)会話分析の基本的技能を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To develop student's ability to analyze language in everyday life
To develop student's ability to do Conversation Analysis (CA)
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. 言語資料の収集と作成
 2. 言語資料の特性 1
 3. 言語資料の特性 2
 4. 言語資料の特性 3
 5. 思考と言語
 6. 書き言葉と話し言葉 1
 7. 書き言葉と話し言葉 2
 8. 物語と文化比較
 9. 映像資料と音声資料、そして文字資料
 10. 文法論と談話論の接点 1
 11. 文法論と談話論の接点 2
 12. 話者交替と参与構造
 13. 会話の構造 1
 14. 会話の構造 2
 15. 研究の方法
8. 成績評価方法：

出席 10%、提出物 50%、期末レポート 50%
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業内で資料プリントを配布する。
10. 授業時間外学習：実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小林隆

コード：LB41503 科目ナンバリング：LHM-LIN203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：方言研究

2. Course Title (授業題目) : Dialectology

3. 授業の目的と概要： 方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は日本語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようなになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。音韻、アクセント、語彙、文法など基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面もテーマとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : There are a lot of people who think a dialect isn't made the target of a study only in close existence. But a dialect is placed as one of a research field of study of Japanese language. I disqualify for such problem what kind of way is that it's here or that what happens to a Japanese dialect actually at this session for after all what a dialect is to study that. "Dialect and dialectology" "phoneme of a dialect, accent vocabulary and grammar" "classification of a dialect" "present-day dialect" the using flank of the dialect and the historical flank in addition to the basic contents of etc. are made a theme.

5. 学習の到達目標：

(1) 方言に対する関心を高め研究対象として理解できるようにする。

(2) 方言研究について概括的な知識を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) I'll can understand the interest to the dialect as a high subject of research.

(2) I put on general knowledge about dialectology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 1. 方言研究への導き
2. 2. 方言の音韻 (1)
3. 2. 方言の音韻 (2)
4. 3. 方言のアクセント (1)
5. 3. 方言のアクセント (2)
6. 4. 方言の語彙 (1)
7. 4. 方言の語彙 (2)
8. 5. 方言の文法 (1)
9. 5. 方言の文法 (2)
10. 6. 方言の表現 (1)
11. 6. 方言の表現 (2)
12. 7. 方言の歴史と現在 (1)
13. 7. 方言の歴史と現在 (2)
14. 7. 方言の歴史と現在 (3)
15. 8. 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

筆記試験 (80%)・出席 (20%)。オンライン授業の場合、コメントの提出を求めることがある。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業資料を配布する。参考書は適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：日ごろ、自分および自分の周囲の人々の方言について観察することで、授業の内容について体験的・具体的に理解するように努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：甲田直美

コード：LB32304 科目ナンバリング：LHM-LIN212J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学基礎講読】

1. 授業題目：文法と談話の接点

2. Course Title (授業題目)：The Interface of Sentence-grammar and Discourse

3. 授業の目的と概要：談話研究に必要な文法論の知見について、論文購読を通して身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course will introduce students to the interrelationship between grammatical theory and discourse analysis through reading academic papers. Students will be introduced to current research paradigms of discourse analysis.

5. 学習の到達目標：

文法論の基本概念について説明できるようになる。文法論の概念から、実際の談話分析での実例を検討する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of grammatical theory related to discourse analysis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

文を研究対象とした文法論の分野のうち、とくに談話分析に関連のある論文と書籍を購読し、検討する。

1. 言語単位、論文の読み方

2. 品詞分類

3. 対人関係の標識

4. モダリティ1

5. モダリティ2

6. 従属節の構造1

7. 従属節の構造2

8. 節単位

9. 談話分析1

10. 談話分析2

11. 会話分析

12. フィラー

13. 文法化1

14. 文法化2

15. 論文の書き方

8. 成績評価方法：

提出物(60%)、期末レポート(30%)、出席状況(10%)

9. 教科書および参考書：

資料は授業内で配布する。

10. 授業時間外学習：毎回、事前に論文を読み、批判・検討した小レポートを提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小林隆

コード：LB41204 科目ナンバリング：LHM-LIN212J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学基礎講読】

1. 授業題目：古典語・方言講読

2. Course Title (授業題目)：Classical Japanese and dialects

3. 授業の目的と概要： この授業では、越谷吾山が編んだ『物類称呼』を取り上げ、それを読み進めながら、江戸時代の方言の状況や、現代に向けての変化の様子などについて考えていきます。

テキストは江戸時代の版本（くずし字）を使用します。そこから江戸時代の方言の状況を読み取り、現代の方言分布と比較します。現代の方言分布は『日本言語地図』などの方言地図を使って見ていくことにします。

授業は発表形式とします。参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえで資料を作成し、発表に臨んでください。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： We read and understand the nationwide dialect of the national dialect established in the Edo Period, Koshigaya Gozan's "Butsurui Shooko" from the perspective of Japanese language studies. We will be familiar with the words of modern times and reveal the dialectic background. The text uses the manuscript.

Classes are in presentation form. Participants prepare prints after reading comprehension and investigation on the range to which the text is allocated, and will present the presentation.

5. 学習の到達目標：

- (1) 古典語を日本語学的に読み解くために必要な方法論を修得すること。
- (2) 方言辞典や方言地図の利用方法を身に着けること。
- (3) 近世から現代にかけての方言の動態に興味を持つこと。

6. Learning Goals(学修の到達目標)： (1) To acquire the methodology necessary for reading and understanding classical words nationally.

(2) To acquire how to use a dialect dictionary and dialect maps.

(3) To be interested in the dynamics of modern dialect from early modern period.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめにー授業への導入
2. 授業の内容と方法
3. 越谷吾山『物類称呼』について
4. 発表 1
5. 発表 2
6. 発表 3
7. 発表 4
8. 発表 5
9. 発表 6
10. 発表 7
11. 発表 8
12. 発表 9
13. 発表 10
14. 発表 11
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席状況等）、試験（変体仮名の解読等）、レポートの3つによって評価します。

9. 教科書および参考書：

参考書は教室で指示します。

10. 授業時間外学習： 参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえで資料を作成し、発表に臨むことが必要です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

特になし。

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：6 単位数：2

担当教員：青木博史

コード：LB98818 科目ナンバリング：LHM-LIN305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：日本語文法の歴史的研究

2. Course Title (授業題目)：

3. 授業の目的と概要：文法は抽象的な体系であるから、本来は体系全体を説明しなければ文法を説明したことにならない。しかし、本授業では、体系への視座をふまえたうえで特定の文法範疇を設定し、その文法範疇における歴史を「文法史」として記述する。当該の文法変化が、いつ、なぜ、どのようにして起こったのか、歴史的变化をダイナミックに描くことを試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：

5. 学習の到達目標：

- ・文法的に言語を分析する方法論を学習する。
- ・歴史的観点から日本語を観察し、その変化を記述する方法論を習得する。
- ・言語を歴史的観点からとらえることで、言語のしくみを理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- ・授業は、配布プリントおよびパワーポイント資料に基づき、講義形式で行う。
- ・内容と進度の予定は、およそ以下のとおり。

1. 活用 (1) 活用形
2. 活用 (2) 活用型
3. アスペクト・テンス
4. モダリティ
5. ヴォイス (1) 受動
6. ヴォイス (2) 使役
7. 格
8. 係り結び (1) 係助詞
9. 係り結び (2) 成立と衰退
10. 準体句 (1) 構造と変遷
11. 準体句 (2) 関連する文法現象
12. 接続表現 (1) 条件表現
13. 接続表現 (2) 接続詞
14. 敬語表現 (1) 丁寧語
15. 敬語表現 (2) 受益敬語

8. 成績評価方法：

レポートおよび出席によって評価する。割合は、レポート 80%・出席 20%とする。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書として、いくつか挙げておく。

- ・『ガイドブック日本語文法史』（高山善行・青木博史編，2010年，ひつじ書房）
- ・『ガイドブック日本語史』（大木一夫，2013年，ひつじ書房）
- ・『国語史を学ぶ人のために』（木田章義編，2013年，世界思想社）
- ・『日本語文法史キーワード事典』（青木博史・高山善行編，2020年，ひつじ書房）

10. 授業時間外学習：可能な限り、授業の前後において、上記の参考書を読む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大木一夫

コード：LB54208 科目ナンバリング：LHM-LIN305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、叙述類型。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is typology of predication.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
- (2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

- (1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,
- (2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,
- (3) be able to think grammatically and report and discuss the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回：ガイダンス
- 第 2 回：文法研究とは何か
- 第 3 回：先行研究の分析について
- 第 4 回：テーマ概説
- 第 5 回：研究史の分析 (1)
- 第 6 回：研究史の分析 (2)
- 第 7 回：研究史の分析 (3)
- 第 8 回：研究史の分析 (4)
- 第 9 回：分析実践 (1)
- 第 10 回：分析実践 (2)
- 第 11 回：分析実践 (3)
- 第 12 回：分析実践 (4)
- 第 13 回：分析実践 (5)
- 第 14 回：分析実践 (6)
- 第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：甲田直美

コード：LB51306 科目ナンバリング：LHM-LIN305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：談話における談話標識の機能を探る。そのために、談話の構造論、談話標識の研究について理解する。文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学習の到達目標：

(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声、イントネーション
3. ターン交替, TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス, 言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象 1
9. 会話に頻繁に見られる現象 2
10. 会話に頻繁に見られる現象 3
11. 会話に頻繁に見られる現象 4
12. 研究テーマの着眼点, レポートの書き方
13. 研究の進め方 1
14. 研究の進め方 2
15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小林隆

コード：LB62207 科目ナンバリング：LHM-LIN305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目) : study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要： これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの中で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった感動詞を取り上げることにし、その構造と変異、運用の地域差について考え、歴史的な側面についての検討も行う。前期の日本語変異論研究演習

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Study of the dialectological Japanese history chooses a dialect as being able to come in sight, and to exceed the limit of the conventional Japanese history in the phase of the word and the side of the geographical expanse. Such purpose of a study and methodology are being explained and various problems are being considered through description of history in detail at this session.

This time, in particular, we will focus on interjections that have not been studied so far, consider their structures, variations, and operations, and examine historical aspects. The results of the dialect survey that will be conducted in the Japanese variation theory research exercise in the first semester will also be analyzed in this class.

5. 学習の到達目標：

方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。特に、感動詞の方言研究に興味をもち、基本的な方法論と分析力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Understand the study of the dialectological Japanese history. In particular, be interested in studying dialects of interjections and cultivates basic methodologies and analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. 授業内容・日程説明
2. 感動詞研究の視点 (1)
3. 感動詞研究の視点 (2)
4. 感動詞研究の視点 (3)
5. 感動詞研究の方法・資料 (1)
6. 感動詞研究の方法・資料 (2)
7. 感動詞研究の方法・資料 (3)
8. 感動詞研究の事例 (1)
9. 感動詞研究の事例 (2)
10. 感動詞研究の事例 (3)
11. 感動詞調査結果の分析 (1)
12. 感動詞調査結果の分析 (2)
13. 感動詞調査結果の分析 (3)
14. 感動詞調査結果の分析 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (80%)・出席 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：感動詞について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：5 単位数：2

担当教員：前田 直子

コード：LB98819 科目ナンバリング：LHM-LIN305J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：現代日本語の文法と文法研究の課題
2. Course Title (授業題目)：Topics of Modern Japanese Grammar
3. 授業の目的と概要：現代日本語（標準語）の文法体系について学ぶ。各文法項目について理解するべき知識を確認するとともに、文法研究および日本語教育文法の観点から、問題点を検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the grammatical system of Modern Japanese (Standard Japanese). The goal of this course is to confirm the knowledge to be understood for each grammatical item and to consider the problems from the perspective of grammar research and the grammar for Japanese language teaching.
5. 学習の到達目標：
 - (1) 日本語の品詞論を把握し、具体的に説明できるようになる。
 - (2) 日本語の文法カテゴリーを把握し、観察・記述できるようになる。
 - (3) 日本語の特徴的な文法的性質について把握し、分析できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to:
 - (1) be able to understand the part of speech theory in Japanese and explain it concretely.
 - (2) be able to understand, observe, and describe Japanese grammar categories.
 - (3) be able to understand and analyze the characteristic grammatical properties of Japanese.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス・授業の概要
 2. 日本語の品詞とその下位分類
 3. 動詞の活用体系
 4. 動詞の活用の種類の形態的特徴
 5. 日本語の基本文型
 6. 「は」と「が」
 7. 授受表現（授受動詞の本動詞用法）
 8. 授受表現（授受動詞の補助動詞用法）
 9. ボイス（態）
 10. アスペクト（相）
 11. テンス（時制）
 12. ムード（（叙）法）とモダリティ（（叙）法性）
 13. 複文と従属節の機能的分類
 14. 従属節の構造的分類
 15. 本講義のまとめ
8. 成績評価方法：

授業への参加度、集中講義期間中の課題の提出、期間後のレポート
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない（プリント配布）。参考文献は授業内に適宜示す。
10. 授業時間外学習：毎回、授業後に課題を出す。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：大木一夫

コード：LB64208 科目ナンバリング：LHM-LIN313J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：言語変化研究

2. Course Title (授業題目) : Study of language change

3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will clarify the language changes that have occurred in the history of Japanese language, and analyze how they changed there and why. Students conduct surveys and analyses, publish and discuss the results.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

- (1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.
- (2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.
- (3) be able to conduct research to clarify language changes, and report and discuss based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 言語変化研究の現状(1)
3. 言語変化研究の現状(2)
4. 言語変化研究の現状(3)
5. 言語変化研究の問題意識(1)
6. 言語変化研究の問題意識(2)
7. 言語変化についての研究発表(1)
8. 言語変化についての研究発表(2)
9. 言語変化についての研究発表(3)
10. 言語変化についての研究発表(4)
11. 言語変化についての研究発表(5)
12. 言語変化についての研究発表(6)
13. 言語変化についての研究発表(7)
14. 言語変化についての研究発表(8)
15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。

日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

第5 semesterの「国語学講読」(近世語研究) から連続して履修すること。

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大木一夫

コード：LB51204 科目ナンバリング：LHM-LIN313J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：近世語研究

2. Course Title (授業題目) : Study of early modern Japanese language

3. 授業の目的と概要：近世前期の口語資料のひとつとして知られる近松門左衛門の世話浄瑠璃を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての近松世話浄瑠璃がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものであるのかをさまざまな視点から検討しながら、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, while reading jōruri, you analyze various aspects of the history and change of Japanese, especially early modern Japanese language.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。

(2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to read materials in old Japanese languages.

(2) be able to find problems in Japanese language history

(3) be able to conduct surveys to grasp the history of Japanese language based on literature materials, and to make reports and discussions based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古辞書概説 (1)
3. 古辞書概説 (2)
4. 発表の方法
5. 研究発表 (1)
6. 研究発表 (2)
7. 研究発表 (3)
8. 研究発表 (4)
9. 研究発表 (5)
10. 研究発表 (6)
11. 研究発表 (7)
12. 研究発表 (8)
13. 研究発表 (9)
14. 研究発表 (10)
15. 研究発表 (11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019

テキスト（近松世話浄瑠璃）はコピーして配付する。

参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

(2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

第6セメスターの「日本語学講読」（言語変化研究）も連続して履修すること。

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：甲田直美

コード：LB61205 科目ナンバリング：LHM-LIN314J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学演習】

1. 授業題目：文章・談話の構造
2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Analysis
3. 授業の目的と概要：これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。
 - I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、
 - II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、
 - III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course deals with the basic methods to analyze discourse and conversation.
 - I. Approaches to genre, register, studies on discourse markers, anaphora, ellipsis, connective words, participation framework, and turn construction unit
 - II. Methods for collecting data
 - III. Guidelines for assignment report writing
5. 学習の到達目標：
 - (1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。
 - (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are to obtain basic methodology and skill to analyze discourse and conversation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. データの種類とその扱い：分析の観点
 2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差
 3. テキストにおけるジャンル差
 4. コーパス研究 1
 5. コーパス研究 2
 6. 文章における諸現象 1
 7. 文章における諸現象 2
 8. 会話における諸現象 1
 9. 会話における諸現象 1
 10. ドラマの構造分析
 11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
 12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
 13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
 14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
 15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
 - 1 2. その他：なし
受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小林隆

コード：LB52209 科目ナンバリング：LHM-LIN314J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学演習】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目)：Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要：方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations. If it is difficult to conduct a field survey due to the effects of coronavirus infection, we plan to switch to an online survey.

5. 学習の到達目標：

方言調査の方法を習得し、実際の調査を体験する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Learn the dialect survey method and experience the actual survey.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)

5. テーマ等設定に向けての作業(1)

6. テーマ等設定に向けての作業(2)

7. 中間報告(1)

8. 中間報告(2)

9. 調査票の作り方についての解説

10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法

11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方

12. 現地調査と結果の分析(1)

13. 現地調査と結果の分析(2)

14. 最終報告(1)

15. 最終報告(2)、授業のまとめ

8. 成績評価方法：レポート(50%)・出席(50%)

9. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

semester：5 単位数：2

担当教員：津田 智史

コード：LB53211 科目ナンバリング：LHM-LIN314J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学演習】

1. 授業題目：言語行動の諸相

2. Course Title (授業題目)：Linguistic Behavior

3. 授業の目的と概要：言語行動に関する研究論文について、その内容を要約して、発表をおこなう。分析対象として、現代日本語だけでなく方言などもあつかう。また、必要により他言語の内容にもふれる。受講者全員で研究論文の内容について討議し、言語行動の多様性とそれにかかわる理論に関する理解を深めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course covers the Linguistic behavior. Students will read the research papers about it, and summarize papers. Not only modern Japanese, but also dialects, or other languages. All students will discuss the content and also develop their presentation skills.

5. 学習の到達目標：

- (1) 自分たちが使うことばについての基礎的知識を身に付ける
- (2) 語学的な見方・考え方はもとより、調査・分析の方法、また問題設定、解決能力を身に付ける
- (3) 適切な発表資料の作成方法、発表・プレゼンテーションの技法を身に付ける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The primary goal of the class is for students to gain below.

- (1) To acquire basic knowledge of Japanese
- (2) To learn about the way to research and to solve problems
- (3) To develop the skills of how to create presentation materials, and the way of presentation

7. 授業の内容・方法と進度予定：

初回から数回は講義形式。その後、演習形式で受講者の発表を中心に進めていく。

1. ガイダンス
2. 日本語会話における言語行動の概観
3. 言語行動と語用論
4. 言語的発想法とは
5. 言語行動に関する論文講読 (1)
6. 言語行動に関する論文講読 (2)
7. 言語行動に関する論文講読 (3)
8. 言語行動に関する論文講読 (4)
9. 言語行動に関する論文講読 (5)
10. 言語行動に関する論文講読 (6)
11. 言語行動に関する論文講読 (7)
12. 言語行動に関する論文講読 (8)
13. 言語行動に関する論文講読 (9)
14. 言語行動に関する論文講読 (10)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・授業への参与状況 [30%]・演習発表 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：発表担当者は、担当となった論文とその内容に関わる用語等について、日本語学関連の辞書や関連論文・書籍から調べておく。受講者は、事前にその論文を読み、その内容についての疑問や意見等をまとめておく。日常の会話場面で見られる言語行動について注意を払い、身近にある用例を採集する。

Class readings are to be completed before class meetings. The presenter will need to look up the terms in dictionary

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし